第 4 回　にぎわい創出検討部会

令和 4 年 5 月 12 日 (木)　16：00 ～

宇部市文化会館 2 階研修ホール

出席者　部会長 ＋ 部会委員 14 名

今回の WS の目的は？

ウォーカブル、即ち**「居心地が良く歩きたくなる」まち**をつくるためには、常盤通りだけで完結することはできない。雰囲気の良い通りをつくることは勿論のこと、エリア全体に行きたい目的地を増やしていかないといけない。

真締川 + 新庁舎広場 + 井筒屋跡地 + 琴芝街区公園 + 商店街等の地域特性を読み取り、それに沿ったエリア別のビジョンと方針を踏まえ、沿道建築 (民間、公共) との関係を考える。

第 4 回となる本会では、集まった「**にぎわい創出検討部会メンバー**」と「**山口大学の学生**」が **2 つの班**に分かれ、それぞれワークショップ形式で以下の議題について議論・発表を通して意見を共有し**エリアビジョン検討**を行った。

今回の WS の議題

エリアビジョン検討案の更新・ブラッシュアップ

01 エリアビジョン検討案の更新とブラッシュアップ

今までのワークショップで出た意見をもとに作ったエリアビジョン検討案をたたき台とし、

❶ウォーカブルな「常盤通り」のキャッチフレーズ

❷ウォーカブルな「常盤通り」に向けたプロセスと備えるべき条件

❸ウォーカブルな環境づくりの推進区域とエリア別の方針

❹ウォーカブルを推進するための取り組み

主にこれら４つをテーマにして議論を進めた。

＜❶キャッチフレーズ＞

・ホッと一息みんなの居場所「**ときわ縁が輪プレイス**」

・宇部の人や文化、場所がつながる「**まちの Engawa**」

・みんなが自由につかえる「**ときわ Terrace(通称：T-Terrace)**」

・みんなでつくる風景でつながる「**常盤通りパークライフ**」

これらを選択肢として、検討を行った。

＜❷プロセスと条件＞

居心地の良く快適な滞留空間と**常盤通りに来やすい環境づくり**に焦点を当て、

駐車場から新たな目的地への流れ、歩く範囲などの検討を行った。

＜❸ウォーカブル推進区域とエリア別の方針＞

居心地が良く歩きたくなるように、快適性・魅力向上を図る空間として、**どの範囲**を

ウォーカブル区域とするのか再検討を行う。また、エリア別の方針についても検討を行った。

＜❹取り組み＞

今までのキーワードを**生活・空間・自然・歴史**のレイヤーごとに分け、さらに時間軸も踏まえた

景観・空間の整備と活用、ルールづくりを行うための手法の検討を行った。

1班

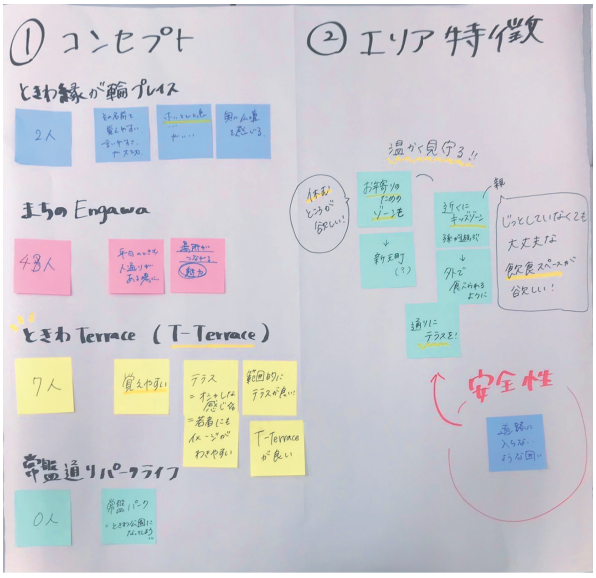
ひとこと

―― ウォーカブルには、安全性と食と滞留 ――

＜キャッチフレーズは T-Terrace＞

キャッチフレーズについての議論の初めは、『**縁側**』と『**テラス**』で意見が2つに分かれた。

『縁側』には、「お年寄りもみんな行けそう」「平日も人がいるイメージ」という意見が出た一方、「奥に仏壇を感じる」や、若者世代からは「ぱっとイメージが湧かない」などという意見も飛び出した。『テラス』は**若者に人気**で「和風よりおしゃれな感じがいいのでは」「短くて覚えやすい」といった意見で、最終的にはテラスで決まりかなという話で固まった。また、T-Terrace の”T”の部分に、**常盤通りと真締川の形**が T などといった他の意味付けもできたらおもしろいのではという話になった。



＜ウォーカブルにするには？＞

ゾーンを考えた際、『**お年寄りのためのゾーン**』がないという意見から、年寄りの需要として「休む場所」「食べる場所」「話ができる場所」が必要という案が出た。次に、ポスティ前が『**若者のゾーン**』になっていることからその理由を考えると、「WiFi が整備されている」「雰囲気がいい」ことから、常盤通りにも WiFi の整備を行い、おしゃれな雰囲気にしようという案が出た。『**子育て世代**』は、「店舗で外食するハードルが高いが、芝生などでは自由に食べられる」ことから、十分に需要があることが分かった。**親世代の視点**から「常盤通りの良さは**安全性**」との話があり、常盤通りのポテンシャルを再確認したとともに、「おしゃれだとうれしい」「お年寄りが子供を温かく見守るとかあればいい」と様々な改善案も出た。また、常盤通りの問題点として『**食べるものがない**』ということが挙げられ、さらに「買って帰る」ではなく「買ってそこで食べる」という行為があってほしいとの意見が出て、**滞留**を目指す方針が一致した。

＜1班まとめ＞

- **キャッチフレーズは T-Terrace**
- **お年寄りには座れるような場所を**
- **買ってそこで食べる、滞留空間を目指す**
- **滞在スペースは、「食べる・安全・おしゃれ」**

2班

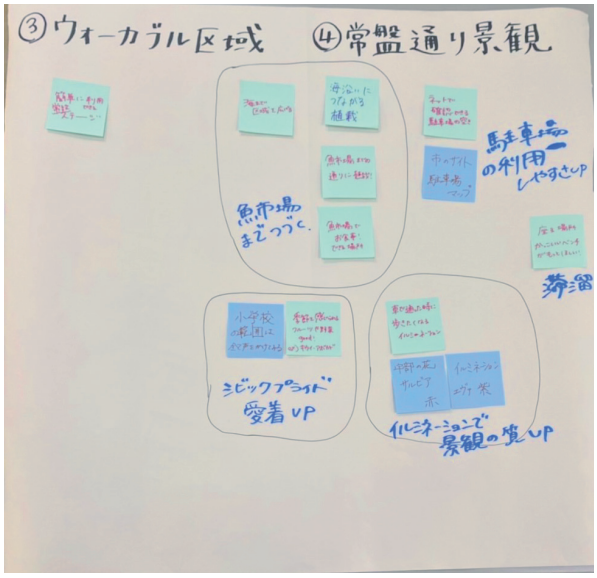
ひとこと

―― 昼は植栽、夜はイルミネーション ――

＜キャッチフレーズは呼称かコンセプトか＞

キャッチフレーズを決定するにあたって、「宇部市の一般の方々がどう思うのかを考える必要があるのでは」と言う意見が出た。「縁側」などのフレーズも一般の方にとってどのような印象を与えるのか、年齢や性別など**ターゲット**で印象も異なってくるのではないかという議論になった。

また、キャッチフレーズの本質的な意味で「**呼称**」としてか「**コンセプト**」としてかの役割が重要ではないかという意見が出た。それによって覚えやすさなどが変わってくるという意見もあり、キャッチフレーズの本質的な意味を確定する必要があるという議論になった。



＜ウォーカブル推進のための景観＞

ウォーカブルを推進するための取り組みとして「**植栽**」「**イルミネーション**」「**魚市場**」の３つが議論の中心になった。

「植栽」に関しては、季節を感じられるような実がなるものがあったら楽しそうという意見や、小学校ごとの植栽の管理する範囲を海沿いにつなげてみるのもいいのではないかという意見が出た。海沿いに誘導するように「植栽」を配置したり、食事ができる場所を設けたりすることで「魚市場」をより活発的にしたいという**ウォーカブル区域の再検討**した。また、夜はイルミネーションによって歩きたくなるようにしたいという議論になった。車で常盤通りを通ったときでも歩くことができるように、駐車場状況の見える化を市のサイトや電光掲示板などで進めるという意見が出た。共通することとして、魚市場や駐車場など周知がされていないことが議論の中で問題に挙げられた。そのうえで、**知る・知らない**ということが重要であるという結論になった。

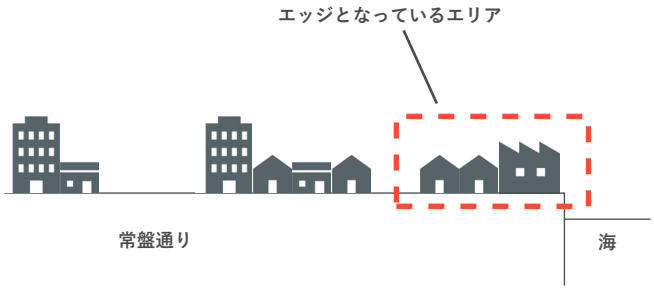
＜2 班まとめ＞

- **一般の方々への印象**
- **キャッチフレーズの本質的な意味**
- **「植栽」「イルミネーション」「魚市場」の活用**
- **「知る・知らない」の重要性**

02 ワークショップのまとめ

あらゆる意見を吸い上げ、整理していくための手法を紹介。

Edge(エッジ)



エッジとは境界線のことであり、海岸や崖線など 2 つの異なる面を隔てている。

宇部市では、ウォータフロントに繋がる参宮通りが魚市場まで伸びずに止まっている。その結果、魚市場や工場のある港町付近がエッジとなっていてイメージしにくい。特に宇部市は大学生など県外の人も多いため、なおさらイメージしにくいと思われる。その問題点を解決するには、魚市場に飲食のスペースを設けるなどその地域の特性を活かした開発やゾーニングが考えられる。

歴史

△ 参考 URL

＜**中津瀬神社**＞

由緒書によると、中津瀬神社は 19 世紀初頭の江戸後期に創建された。江戸中期まで境内近辺は度重なる**水害**を受け、凶作に苦しんでいた。水害を解決するため、当時の毛利家家老・福原房純による指揮のもと**新川（真締川）の採掘**が始められ、1798 年に完成した。新川の完工を受け、住民の鎮守として 1801 年に建立された。宇部大空襲によって社殿は全焼したが、戦後の復興とともに社殿も再建され 2 度の改修を経て現在に至る。

△ 参考 URL

＜**星出の森**＞

青少年会館の前にある星出の森は**”彫刻の街・宇部市”**の育ての親である 13-15 代宇部市長の**故星出市長**を顕彰して作られた。

現在宇部市立図書館に設置されている「冬の子供」という彫刻は、以前は星出の森に設置されていた。第 1 回現代日本彫刻展（UBE ビエンナーレ）に出品され、故星出市長が「いいなあ」と呟いたことで故人の一周忌にあたる昭和 45 年、市民多数の有志による基金で星出の森がつくられ、後にこの作品も設置された。

コラム

ワークショップ中に出た、取り組みや事例紹介

01 原宿・代官山

常盤通りの近くに住めばいいとの意見に対する岡松先生の回答に出ていた事例。

原宿や代官山は街のすぐそこに住宅があり、「スリッパ履きでおしゃれなレストランに行ける」場所。銀座などとは違った魅力がある。

常盤通りも、そのような可能性を秘めているのでは？

△ 参考 URL

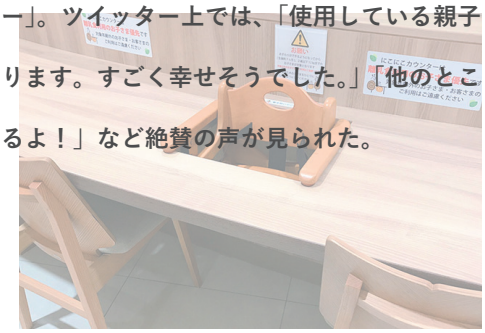
02 阿蘇ファームランド　@熊本

熊本県阿蘇九重国立公園の中腹に位置し、年間400万人もの来場者が訪れる世界最大級の健康テーマパークである。特徴的なのが通年でイルミネーションを楽しめることであり、冬の夜の時間はパワーアップして演出を行い、子供から大人まで楽しめるイルミネーションは大自然の澄み渡る夜空に見事に彩りを与えている。

△ 参考 URL

03 イオンのフードコートの椅子

愛知県にあるイオンスタイル豊田のフードコートの椅子が、子供連れにやさしいと話題。赤ちゃん用の椅子がカウンターの中に入っており、対面で座れるようになっている。名前は「にこにこカウンター」。ツイッター上では、「使用している親子を見たことがあります。すごく幸せそうでした。」「他のところに行けなくなるよ！」など絶賛の声が見られた。



△ 参考 URL

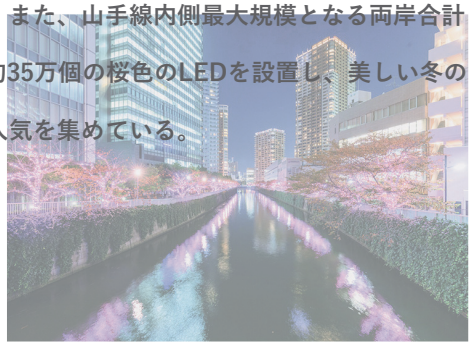
04 エディブル・ランドスケープ

エディブル・ランドスケープとは、植栽の大多数の部分が食べられるもの（果実や木の実、葉など）を提供する景観のことを言う。この景観は、人々のコミュニケーションを促し、強いコミュニティ形成に影響する。イギリスでは「インクレディブル・エディブル」という取り組みで町中に食べられる植物が育てられていて、誰でも食べられるようになっている。

△ 参考 URL

05 目黒川

大崎・五反田エリアの目黒川沿いでは、2011年度から地域の家庭や飲食店から出る廃食油をバイオディーゼル燃料としてリサイクルし、100％自家発電でイルミネーションを点灯する取り組みが続いている。また、山手線内側最大規模となる両岸合計総延長約2.2km、約35万個の桜色のLEDを設置し、美しい冬の桜を演出しており人気を集めている。



△ 参考 URL

00

関連する事例等あればここで共有します